

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 夢門塾ゆうゆう相生			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化された環境づくりが徹底されており、名札へのマーク表示や視覚支援の活用、SOSを出しやすい環境配慮など、子どもが安心して過ごせる環境設定ができています。清掃・消毒・整理整頓も日常的に行われ、清潔で心地よい空間が維持されています。	PDCAサイクルを回すため、毎月の職員会議や行事後の反省会、業務日誌の活用を通して継続的な改善を行っています。	室内掲示や収納ラベルに写真表示を増やし、より分かりやすい視覚支援を強化していきます。
2	個別支援計画の作成・モニタリング・共有が非常に丁寧に行われており、保護者参観を取り入れながらニーズを反映した計画立案ができています。職員間の共通理解も図られており、計画に沿った支援が安定して提供されています。	活動プログラムが固定化しないよう、季節行事や運動・机上課題を発達段階に合わせて調整し、多様な経験機会を提供しています。	保護者会や家族交流の機会を、参加しやすい日時設定を検討しながら定期開催できるよう努めます。
3	保護者満足度が極めて高く、「安心して通えている」「楽しみにしている」「支援に満足している」との声が多数見られます。日々のフィードバックや面談による丁寧な情報共有が信頼関係につながっています。	夏祭りや保護者会の開催など、家族参加型イベントを実施し、家族支援や保護者同士の交流機会づくりにも取り組んでいます。	地域行事への参加や地域外出活動を工夫し、地域との関わりを少しずつ広げていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援終了後の振り返り時間が十分に取れない日があり、業務日誌での共有に頼る場面があります。	送迎や支援時間の関係で、職員打合せ時間が十分に確保できない日があります。	短時間でも職員間で共有できる仕組みづくりを進めます。
2	地域交流や地域イベント参加が提供時間の制約により限定的です。	児童発達支援は提供時間が短く、地域活動に参加しにくい特性があります。	提供時間内で可能な地域外出や体験活動を増やします。
3	家族支援プログラムや参観機会について「もう少し増やしてほしい」という声があります。	参観や交流機会は、子どもの情緒面への配慮も必要となります。	保護者が参加しやすい家族支援機会を計画していきます。